

## 収容施設における児童・職員の オペラント行動の研究

研究第9部 中 一 郎  
御殿場コロニー 土 井 尚 典

### I 目 的

精神薄弱児収容施設の中で小舎制をとっている施設においては児童と保母・指導員（以後職員と略す）が寝食を共にし、お互に接触するその環境は、一般家庭の親子や兄弟の關係に近いほどである。

しかしながら収容児童の発達環境は明らかに一般家庭の児童の環境とは明らかに違っている。特に对人的環境においては、児童は肉親と離れて「生活指導をする職員」と生活していることである。

本研究では、児童の発達に影響を与えている「環境としての職員」と児童のオペラント行動の研究を試みてみたい。

(1) 職員は「児童のよりよき発達」のために様々な訓練指導を試みる。児童に生活指導を行う場合に、たとえば、児童が食事を「こぼさず」にできた時に「こぼさなかったよ」と児童がいった時「えらいねえ」と答えが返ってくるならば、児童の「こぼさない行動」は促進されるであろう。また「こぼした時」に厳しく叱ることも「こぼさない行動」を促進するであろう。上記の2つは結

果が同じであっても職員の刺激機能が全く異っている。

すなわち、職員から「ほめられたり」「承認を受けたり」することによって学習が促進される児童の環境（職員の行動）は正の強化因子を持つ刺激事象といえる。一方「叱られたり」「罰」によって学習が促進される児童の環境は負の強化因子を持つ刺激事象といえる。

(2) また、児童が「ほめられ」ても学習が促進されずたまたま職員が「強く叱った」時に学習が促進されたなら、その児童に対して職員は「叱る」ことが多くなるかもしれない。もしそうだとすれば、職員は児童（環境）に規制されている（オペラント行動をしている）といえる。ここで、児童を職員の刺激事象としてとらえてみると、職員のオペラント行動は「叱る傾向」を持ったり「ほめる傾向」を持ったりする。

(3) 本研究では上記の点を中心前提にして、集団の児童に集団の職員がオペラント条件づけ（生活指導）をやってみた。さらに職員には児童に生活指導をする時の態度の内省を自己評定を依頼した。

### II 研究 方 法

(1) 精神薄弱児施設で小舎制をとる施設を対象とし、同一寮内の児童8名（第2表）と職員5名（第3表）を研究対象とした。

(2) 全児童に生活指導目標と方法（第1表）を設定し、それにそって5ヶ月間にわたり生活指導するよう依頼した。その結果を全職員5名で協議し整理と反省を依頼した。

(3) (2)の整理と反省が終えた後（S 48.11.1）で次のことを依頼した。職員が児童に生活指導目標と方法を行った時の態度の中で一般的に正の強化因子として働く項目、負の強化因子として働く項目、中性刺激として働く

項目を作成し、項目分析により各々7項目、計21項目（Qカード）を作成した。21枚のカード（第4表）を各児童毎に、職員が生活指導を行った時の態度を自分に「非常にあてはまる」から「非常にあてはまらない」まで第5表に示すように7段階にQ分類基準にしたがって分類するよう自己評定を依頼した。

第1表 生活指導目標と方法 (昭和48年4月1日現在)

	A 君	B 君	C 君	D 君
洗面	<p>全面介助。 ひどく嫌がるのでアゴをおさえて洗面する嫌がらないです時は、アゴをおさえないようにする。</p>	<p>声をかければ洗面歯みがきをするので、自分からすすんでやれば、「エライネ」とほめてやる。</p>	<p>みがき粉をつけてやると自分でやろうとする動作をみせている。又口に水を含み出せる。目標として ①きちんとみがけなくてもみがく動作をするようにする。 ②嫌がらないで洗面場へ行く。 嫌がる時はいつも持っているボールを取りあげる。</p>	<p>意志もなく、全面介助なので第一段階として洗面はみがきを嫌がらないようにする。 はみがきを嫌がらずに出来たときは、抱っこして部屋まで連れていく。</p>
排泄	<p>トイレ以外でやるのでトイレでやるようにする。トイレ以外でやろうとしているところをみついたらすぐ「トイレでやりなさい」と指示する。ベットの上でやっただけ厳しく叱る。</p>	<p>問題なし。</p>	<p>便意を感じたとき排泄する場がわかるようにする。 始末を職員にたのむようにする。 職員はいつでも気持ち良く応じるようにする</p>	<p>時間で連れて行けば失敗を防げるようにする連れていった時にトイレですれば、抱っこしてトイレから出す。</p>
脱着衣	<p>ズボンは脱げるが上が脱げないので、途中で脱してやれば、ひとり脱げるようにするお風呂が好きなので、浴時は自分で脱げるまで入浴させない。</p>	<p>問題なし</p>	<p>脱衣はなんとか出来るが、着衣は型におけば出来る。両方ともろいので脱衣は入浴が好きなので入浴時に出来るまで入浴させない。着衣は出来るまで、ボールをわたさない。</p>	<p>脱衣は途中まで脱がすと出来る。着衣は手足を出す程度。着衣の時非常にあばれるので、あばれなかった時は抱っこしてやる。シャツパンツは手足を通すだけで後は自分でやらせてみる。</p>
食事	<p>好きなものを先に食べて、他は食べないので、好きなものを後にして他のものを食べたら好きなものを食べさせるようにする。</p>	<p>食事が遅くて、少食なので、時間内に出来た時はみんなの前でほめる。器を少し小さいのを使う。</p>	<p>肉、野菜、固型物の偏食がひどいので一番好きなものをあとまわしにして偏食をなくすようにする。</p>	<p>左効きだが、右手を使う時もあるので、スプーンを常に左手にもたせるようにする。手づかみで食べる時があるので、その場合、左手にスプーンを持たせたまま本児をテーブルから離す。</p>

E 君	F 子	G 子	H 子
<p>洗面、はみがきは介助の段階であるが、素直にやらせるが、能力的に自分でできるはずであるので洗面は下手でも自分で出来るようにする。はみがきは、自分でチューブからブラシにつけ、はみがき動作、口に水を含み出すまでを言語指示によりやらせる。一つ一つ出来たら右手のひらに○印出来なかったら×印をかく</p>	<p>きちんとみがけないがみがく動作をする。洗面も動作有り、顔をタオルで拭く動作もあるので目標として、ブラシにみがき粉を自分でチューブよりつけれるようにする。洗面は顔を洗って、タオルで拭く動作までを一連の動作として完成させる。指導中は彼女の口ぐせである。「アラお上手ね」を職員が連発する。</p>	<p>はみがき、洗面中は泣き叫ぶので、先ず嫌がらないようにする。洗面の時間前に出来るだけ自由に遊ばせるようにする。</p>	<p>一応出来るが不完全。もっとといねいにするようにする。声かけがなくとも時間が来るとするようにする。上手に出来たり率先してやった場合はほめてあげる。</p>
<p>自分がお尻の始末が出来るようになる。出来たら○をあげる。</p>	<p>トイレで必ず排泄をするようにする。始末の動作をするようにする。動作が出来ると「アラ、お上手ね」といってあげる。</p>	<p>本人は意志はないけれど時間で連れて行けば失敗を防げるようにする。トイレに連れて行ったら、必ず排泄できるようにする。出来たら抱っこして帰る</p>	<p>生理の時、自分で取り出して出来るようにする。トイレに行った後生理の始末が出来ているかどうか確認して、上手に出来ていればほめてあげる。</p>
<p>着る事は出来るが表裏前後を確かめることが出来ない。表裏前後が誤っていれば、その場で着直しをさせる。出来れば○を与える。下着をだらしなく出して着ている事が多いので、その時もすぐ注意し下着を入れさせる出来れば○を与える。</p>	<p>シャツ、パンツは、手足を通してやれば出来る。目標は型におけば出来るようにする。一つできるごとに「アラお上手ね」といってあげる。</p>	<p>着せられようとして手足を出す、パンツは着て1分以内に脱いでしまうのでズボンを脱がないように工夫する。脱ごうとするとすぐにお尻をたたく</p>	<p>表裏前後の確認が出来るようにする。表裏前後が出来るまで、戸外に出さない（戸外に行くのがとても好きである）</p>
<p>食事を3分内にすませるので、嘔気が多い、下痢も目立つ（週に一回）ので、食事の時間を15分程にのばす為に食器に口をつけて食事をする事を禁ずる。食器に口をつければ、すぐテーブルから離す。</p>	<p>食事のとりかかりが遅い（他の子が半分程食べたころ）なので、早く食べはじめするようにする。はしを持って食べようとすると「イイコネ」といって話しかける。</p>	<p>すぐに手づかみで食べようとするので、手を叩く（テーブルから離すと離席してしまう）</p>	<p>食器を持たないで食べるので、食器を持つようにする。食器を持たない場合は、食器を持つように左手をそえさせる。それでも出来ないときはテーブルから離す。</p>

第2表 児童

	性別	CA	在園年数	EQ (IQ)
A君	男	9:2	4:2	18
B君	男	12:0	5:7	(43)
C君	男	9:9	3:9	28
D君	男	6:8	1:2	33
E君	男	15:2	2:7	17
F子	女	13:5	3:5	26
G子	女	9:11	1:8	19
H子	女	14:7	5:8	14

第3表 職員

	年齢	勤務年数
保母1	24	2
保母2	21	1
保母3	28	1
指導員1	29	1
指導員2	23	3

第5表 Q分類基準

枚数	分類基準	得点
1	非常にあてはまる	+3
2	ややあてはまる	+2
4	あてはまる	+1
7	どちらともいえない	0
4	あてはまらない	-1
2	ややあてはまらない	-2
1	非常にあてはまらない	-3

第4表 生活指導を行った時の態度項目

No.	項目
正の強化因子	1 子供の成績物や作品をできるだけほめるようにしている
	4 子供が近づいて来るとうれい
	7 子供がきめられた仕事をしないと気嫌をとったりお菓子を与えることを約束してやらせる
	10 できるだけほめながら仕事をさせるようにしている
	13 「いい子だから」といって用事をたのむようにしている
	16 子供の弁解や抗議が正しいときはすなおに謝まることにしている
19 一寸したことでも、すぐその場でほめるようにしている	
負の強化因子	2 子供を叱ることが多い
	5 子供を叩くことが多い
	8 自分の思いどおりにならなければ子供を叱りがちである
	11 礼儀規律を厳しくいう方である
	14 「早くねなさい」「遅れます」など時間のことを厳しくいう方である
	17 子供の手足の汚れや衣服の汚れが非常に気になる方である
20 一寸したことでもすぐその場で叱るようにしている	
中性刺激	3 「忙しいからね」などと、取り合わなかったり、話相手にならなかったりすることがよくある
	6 子供の要求や約束に対して忘れてたり、無関心だったりすることがよくある
	9 子供の成績物や作品などを子供に見せられても余り反応を示さないことがよくある
	12 子供にたのまれても、なかなか気がすすまないで忘れてしまうことがよくある
	15 子供の仕事としてきめられてあることでも面倒くさいので、自分でやってしまうことがある
	18 きめてあることでも、子供が嫌がれば許してやることがよくある
21 子供がだれとどんな遊びをしていても気にならない方である。	

### III 結果と考察

#### (1) 5ヶ月間の生活指導訓練より

① オペラント条件づけ（生活指導訓練）の結果は第6表に示す通りである。

各児童の目標に対して共同生活をしている各職員が場面や状況において指導する訳であるので強化刺激が場面や状況に応じて変化している。したがってオペラント条件づけというよりむしろ児童の生活指導目標に沿って職員がオペラント行動をとった行動の結果となってあらわれて来た。しかも第7表からわかるように

(イ) いづれの職員も児童に対してトータルとして、強化因子を持つ刺激事象であり、中性刺激ではなかった。

(ロ) いづれの児童も全職員からトータルとして生活指導目標に向かって強化されている。

② 生活指導目標に対しては全体としてよく達成されているが、目標が達成されると同時にそれに付随した問題点が生じて来てオペラント条件づけがゆがめられてしまっている（H子）。

③ A君の排泄指導、C君の食事指導、E君の洗面・食事指導、G子の排泄、H子の洗面など、正の強化刺激よりむしろ負の強化刺激の提示に変化し、その効果が生じてきている。職員のアオペラント行動といえる。

(2) 生活指導を行った時の態度の自己評定を職員の相関マトリックスを作り因子分析により、第一因子をとり出した（第8表の1～8）。次に児童間の相関マトリックスを作り同様にして第一因子をとり出した（第9表の1～5）各児童毎の第一因子の負荷量は第10表にまとめた。その重みを第11表にまとめた。各職員毎の第一因子の負荷量は第12表にまとめた。その重みを第13表にまとめた。第11表より粗点の修正を加えたものを第14表の1より第14表の8にまとめた。

#### ① 目的1について

正の強化因子を持つ刺激提示を相対的により多く受ける児童は第7表より、B君、C君、D君、F子がいる。したがって、この4名は相対的に正の強化因子を持つ刺激事象（職員という環境）の中にいるといえる。特にこの4名は保母3名（女子職員）に因子負荷量（第10表）が多く、正の強化因子を持つ刺激事象である保母を中心とした生活指導を受けているといえるだろう。さらに重みを加えて修正点を出して第7表とくらべるといずれも、正負の差がひろがっている（第10表、第14表の2、3、4、6）

逆に負の強化因子を持つ刺激提示を相対的により多く受ける児童は第7表より、A・E君とG・H子である。因子負荷量（第10表）をみると保母2・3が目立っている。修正点と第7表を比較してみるとE君だけは負の強化の割合が大きくなっている。加えて相関マトリックス（第8表の5）をみると職員間相関が低く、E君はバラバラの指導を受け、かつ「叱られる傾向」が強い子といえるだろう。

#### ② 目的2について

第7表をみると保母1・2・3は相対的に正の強化刺激提示傾向があり指導員1・2は負の強化刺激提示傾向があるといえる。

第12・13表を見ると保母2・3は因子負荷量が高く、全部の児童に正の強化刺激を提示する、すなわち「ほめる傾向」があるといえよう。保母1はE君を除いた児童に、正の強化因子を持つ刺激事象であろう。指導1は全部の子に負の強化因子を持つ刺激事象であろうし、指導員1は相関マトリックス（第9表の4）を照してみると指導に混乱が生じているといえる。

### IV 問題点

(1) オペラント条件づけが複数の児童に複数の職員が施設の日常生活場面で行われたために、刺激と効果ははっきりしなかった。さらに測定が不可能に近かった。

(2) 生活指導といっても指導目標にあげた4点でなく個々の児童にとって問題にすべき点が他に沢山あることもオペラント条件づけを不明確にし、その態度測定も一般的に流れた感がある。

(3) 児童と職員が共同生活をしているため両者のオペラント行動の交互作用が余りに激しくオペラント条件づけをする場合厳格に行うこと自体が困難であると感じられた。

(4) 児童と職員の交互作用が深く密である程、児童の発達にはより適しているのではないかと本研究を通して感じられた。

第6表 生活指導目標についての結果 (昭和48年9月30日現在)

	A 君	B 君	C 君	D 君
洗面	洗面することに抵抗がなくなり、介助の段階であるが、やりやすくなる。 (反省) 嫌がらないでやった時は、ほめてみたけれどうれしそうな顔をしない。むしろ洗面が終わった事を喜ぶ。	時間になると率先してやるようになる。 (反省) 職員が彼を高くみとめたのが、より効果があったようだ。	きちんとみがけなくとも自分ではみがき動作をするようになる。しかし、時々洗面をいやがる。 (反省) むりやりやらせたあと、恐ることがはじめあった。その時でも、えらかったねとほめると、気分が直ることが多くなってきた	洗面、歯みがきを時々いやがるけれど、大体よくなって来た。 (反省) 嫌がる時、抱っこして洗面場へ連れて行くと嫌がらないことが多くなった。
排泄	たまに行くようになる自宅に帰った時は、きちんとできたそうだ。 (反省) 余りにあちこちでおしっこをするので、叱ることが多かった。	—	「ウンチ、クサイ」といって大便のあと始末を依頼するようになる (反省) 戸外では、あたりかまわずおしっこをするので、外出前に必ずトイレへ行くように指導するべきだった	トイレに連れて行けばちゃんと出来るようになった。 (反省) 便意を感じると、パンツを脱いであたりかまわずやる傾向が出て来たので、次の段階への可能性が出て来た。
脱着衣	途中まで脱がせれば、脱げるようになる。 (反省) パンツを自分ではかせるように指示したところ、自分ではけた。もっと大胆に指導してみるべきであった。	—	脱着衣が早くなる。 (反省) 職員がついていないと、着衣の場合は、仲々やらない。	着脱衣は、あばれなくなった。シャツ、パンツの手足を通してやると、着ずにすぐ脱いでしまう。 (反省) 叱るとすぐ泣き出すので、すぐ抱っこしてしまった。
食事	最初のうちはひどく憤ったが、好きなものを後まわしにすることができるようになった。 (反省) 目をはずすと好きなものだけを食べている。	時間内にできるようにになったが、少食は変化がない。 (反省) 時間が来ると途中であっても自分で片付けてしまう傾向がでて来た。	焼肉と生野菜は食べるようになったが、他の固型物は泣いて食べないことが多い。 (反省) 肉と生野菜以外は職員がおれてしまうことが多いので、偏食の数の方がまだまだ多い。	左ききは安定してきて右手は食事には全く使用しなくなった。手づかみで食べることもなくなった。 (反省) 手づかみで食べると、本児をテーブルから離すと非常に泣くので、許してしまいたい気持ちが、よくおきた。

E 君	F 子	G 子	H 子
<p>自分で率先して洗面、はみがきをするようになる                      (反省) 叱った方がよくやるので、命令口調の指示が多くなってしまった</p>	<p>一連の動作として完成したが、きちんと上手にはまだ出来ない。                      (反省) 暇さえあれば洗面をするようになり、困った。</p>	<p>はみがき、洗面中はおとなしくなった。                      (反省) どうしてもイタズラがすごいので、洗面前に叱らないでおくことが出来なかった。したがって洗面中も、叱っておとなしくさせることが目立った。</p>	<p>技術上の進歩は見られなかったが、時々時間が来ると、自分ではじめた。                      (反省) ほめても余り効果がないので、叱ることが多かった。</p>
<p>自分で始末が出来るのだが、トイレから出て来て廊下でお尻の始末をする                      (反省) トイレでこるぶ恐怖感があるので、運動機能の訓練も必要である特にバランス。</p>	<p>失禁がなくなる。トイレでペーパーを使い、始末をする動作をするようになる。                      (反省) ペーパーをむちやくちやに使い、トイレをつまらせる。</p>	<p>便器にすわらせればできるようにになる。                      (反省) 便器にすわらせると、すぐに立ち上がるので叱って座らせておくことが多かった。</p>	<p>生理の時、自分で始末ができるようになる。                      (反省) 生理の終わりがわからない。汚物入れに入れることはできるが、前に入っている分を便器に流してしまうので、ほめたあと叱ることが多かった。</p>
<p>職員がそばに居る時は、表裏前後を確認しようと努力する。トイレの後は下着をだらしく出している程度になる。                      (反省) 職員が、もっと確認すれば良いが、すぐに戸外に遊びに行ってしまうので、仲々、確認できなかった。</p>	<p>シャツ、パンツと続けて二つは出来ないが、1つだけはやろうとする動作があり、時には出来る。                      (反省) 気分により、1つに10分以上もかかるので、つい着せてしまうことが多かった。</p>	<p>工夫した衣類でない場合は、5分程脱がないでいる工夫した衣類の場合は、ほとんど脱がない。                      (反省) 衣類の工夫は効果があるが、排便の訓練には不都合</p>	<p>表裏はできるようになる。                      (反省) ひんぱんにかえるようになる。</p>
<p>食事の時間が15分以上のびる。食後の鬱気がほとんど見られなくなる。下痢は風邪気味の時にしか見られなくなる。はしの使い方が上手になる。                      (反省) 叱ることが中心になり、かわいそうになった。</p>	<p>いただきます、と同時にはしを持つようになる。口をつけるのは、それから5分以内位の長さでおくれる。                      (反省) はしを持つと、「イイコネ」といって笑いかけないと気分が悪くなる傾向が出てくる。</p>	<p>手づかみで食べる回数が5～6回から、1～2回に減る。                      (反省) 体調による訓練なので問題がある。</p>	<p>食器を持ってたべるようになる。                      (反省) 食べる時間が以前より速くなる。                      (5分位から3分位)</p>

第7表 生活指導目標を遂行する時の態度の自己評定

	因 子	A 君	B 君	C 君	D 君	E 君	F 子	G 子	H 子	Σ	Χ
保母1	正の強化因子	4	6	4	5	-2	6	5	2	30	3.75
	負の強化因子	4	4	-2	-3	1	-2	4	3	9	1.13
	中 性 刺 激	-8	-10	-2	-2	1	-4	-9	-5	-39	-4.88
保母2	正の強化因子	8	9	7	5	3	7	5	6	50	6.75
	負の強化因子	2	-2	1	0	8	3	5	5	22	2.75
	中 性 刺 激	-10	-7	-8	-5	-11	-10	-10	-11	-72	-9
保母3	正の強化因子	3	10	4	5	-1	4	4	5	34	4.25
	負の強化因子	2	-4	0	0	6	0	3	3	10	1.25
	中 性 刺 激	-5	-6	-4	-5	-5	-4	-7	-8	-44	-5.5
指導員1	正の強化因子	-2	4	-2	2	-2	-5	-4	-2	-11	-1.38
	負の強化因子	6	-7	5	1	3	1	8	3	20	2.5
	中 性 刺 激	-4	3	-3	-3	-1	4	-4	-1	-9	-1.13
指導員2	正の強化因子	-2	5	1	0	-1	2	3	1	9	1.13
	負の強化因子	6	-2	-1	3	3	-4	2	6	13	1.63
	中 性 刺 激	-4	-3	0	-3	-2	2	-5	-7	-22	-2.76
Σ	正の強化因子	11	34	14	17	-3	14	13	12	112	14
	負の強化因子	20	-11	3	1	21	-2	22	20	74	9.25
	中 性 刺 激	-31	-23	-17	-18	-18	-12	-35	-32	-186	-23.25
Χ	正の強化因子	2.2	6.8	2.8	3.4	-0.6	2.8	2.6	2.4	22.4	2.8
	負の強化因子	4	-2.2	0.6	0.2	4.2	-0.4	4.4	4	14.8	1.85
	中 性 刺 激	-6.2	-4.6	-3.4	-3.6	-3.6	-2.4	-7	-6.4	-37.2	-4.65

第8表の1 A君の相関マトリックスと第一因子と重み

	保母1	保母2	保母3	指導員1	指導員2	合 計
保1	(.619)	.524	.619	.548	.381	2.072
保2	.524	(.786)	.786	.476	.523	2.309
保3	.619	.786	(.786)	.429	.381	2.215
指1	.548	.476	.429	(.548)	.476	1.929
指2	.381	.523	.381	.476	(.523)	1.761
$t_{j1}$	2.691	3.095	3.001	2.477	2.284	$\Sigma t_{j1}=13.548$
$a_{j1}$	.731	.841	.816	.673	.621	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=3.679$
重み	1.18	1.35	1.31	1.08	1.00	$\frac{1}{\sqrt{t_{j1}}}=0.2718$
修正	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	

第8表の2 B君の相関マトリックスと第一因子と重み

	保母1	保母2	保母3	指導員1	指導員2	合 計
保1	(.667)	.429	.667	.214	.405	1.715
保2	.429	(.738)	.738	.405	.524	2.096
保3	.667	.738	(.738)	.500	.571	2.476
指1	.214	.405	.500	(.500)	.262	1.381
指2	.405	.524	.571	.262	(.571)	1.762
$t_{j1}$	2.382	2.834	3.214	1.881	2.333	$\Sigma t_{j1}=12.664$
$a_{j1}$	.669	.796	.903	.529	.656	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=3.559$
重み	1.26	1.50	1.70	1.00	1.24	$\frac{1}{\sqrt{t_{j1}}}=0.2810$
修正	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	

\* 修正とは重みの修正を意味する。(以下同じ)



第8表の3 C君の相関マトリックスと第一因子と重み

	保母1	保母2	保母3	指導員1	指導員2	合計
保1	(.262)	.238	.119	-.095	.262	.524
保2	.238	(.548)	.548	.119	.257	1.162
保3	.119	.548	(.548)	.119	.452	1.238
指1	-.095	.119	.119	(.381)	.381	.524
指2	.262	.257	.452	.381	(.452)	1.352
$t_{j1}$	.786	1.710	1.786	.905	1.804	$\Sigma t_{j1}=6.991$
$a_{j1}$	.297	.647	.676	.342	.683	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=2.643$
重み	1.00	2.18	2.28	1.15	2.30	$\frac{1}{\sqrt{t_{j1}}}=0.3784$
修正	1.0	2.0	2.5	1.0	2.5	

第8表の4 D君の相関マトリックスと第一因子と重み

	保母1	保母2	保母3	指導員1	指導員2	合計
保1	(.738)	.738	.714	.690	.286	2.428
保2	.738	(.786)	.786	.548	.286	2.358
保3	.714	.786	(.786)	.595	.071	2.166
指1	.690	.548	.595	(.595)	.429	1.662
指2	.286	.286	.071	.429	(.429)	1.008
$t_{j1}$	3.166	3.144	2.952	2.257	1.437	$\Sigma t_{j1}=12.956$
$a_{j1}$	.810	.874	.820	.627	.399	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=3.599$
重み	2.03	2.19	2.06	1.57	1.00	$\frac{1}{\sqrt{t_{j1}}}=0.2779$
修正	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	

第8表の5 E君の相関マトリックスと第一因子と重み

	保母1	保母2	保母3	指導員1	指導員2	合計
保1	(.286)	.142	-.095	.286	.071	.404
保2	.142	(.500)	.500	.214	-.071	.785
保3	-.095	.500	(.500)	.286	.190	.881
指1	.286	.214	.286	(.476)	.476	1.262
指2	.071	-.071	.190	.496	(.476)	.666
$t_{j1}$	.690	1.285	1.381	1.738	1.142	$\Sigma t_{j1}=6.236$
$a_{j1}$	.276	.515	.553	.696	.458	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=2.497$
重み	1.00	1.87	2.00	2.52	1.66	$\frac{1}{\sqrt{t_{j1}}}=0.4005$
修正	1.0	2.0	2.0	1.5	2.5	

第8表の6 F子の相関マトリックスと第一因子と重み

	保母1	保母2	保母3	指導員1	指導員2	合計
保1	(.595)	.595	.500	-.071	.214	1.238
保2	.595	(.595)	.548	.000	.214	1.357
保3	.500	.548	(.548)	-.190	.262	1.120
指1	-.071	.000	-.190	(.190)	.190	-.071
指2	.214	.214	.262	.190	(.262)	.880
$t_{j1}$	1.833	1.952	1.668	-.119	1.142	$\Sigma t_{j1}=6.714$
$a_{j1}$	.727	.754	.644	.046	.441	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=2.5903$
重み	1.65	1.71	1.46	.10	1.00	$\frac{1}{\sqrt{t_{j1}}}=0.3860$
修正	1.5	1.5	1.5	0	1.0	

第8表の7 G子の相関マトリックスと第一因子と重み

	保母1	保母2	保母3	指導員1	指導員2	合計
保1	(.738)	.619	.738	.143	.214	1.714
保2	.619	(.857)	.857	.262	.500	2.238
保3	.738	.857	(.857)	.333	.429	2.357
指1	.143	.262	.333	(.405)	.405	1.143
指2	.214	.500	.429	.405	(.500)	1.548
$t_{j1}$	2.452	3.095	3.214	1.548	2.048	$\Sigma t_{j1}=12.357$
$a_{j1}$	.698	.880	.914	.440	.583	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=3.515$
重み	1.59	2.00	2.07	1.00	1.32	$\frac{1}{\sqrt{t_{j1}}}=0.2844$
修正	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	

第8表の8 H子の相関マトリックスと第一因子と重み

	保母1	保母2	保母3	指導員1	指導員2	合計
保1	(.595)	.595	.142	.238	.190	.975
保2	.595	(.690)	.690	-.024	.286	1.547
保3	.142	.690	(.690)	-.405	.333	.760
指1	.238	-.024	-.405	(.238)	.071	-.120
指2	.190	.286	.333	.071	(.333)	.880
$t_{j1}$	1.570	2.237	1.450	.118	1.213	$\Sigma t_{j1}=6.588$
$a_{j1}$	.612	.872	.565	.046	.473	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=2.566$
重み	1.29	1.84	1.19	.10	1.00	$\frac{1}{\sqrt{t_{j1}}}=0.3897$
修正	1.5	1.5	1.0	0	1.0	

第9表の1 保母1の相関マトリックスと第一因子と重み

	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
A	(.619)	.143	.595	.071	-.190	.310	.619	.024	1.572
B	.143	(.333)	.024	.238	.095	.071	.167	.333	1.071
C	.595	.024	(.643)	.476	.238	.643	.500	.381	2.857
D	.071	.238	.476	(.595)	-.262	.595	.333	.381	1.832
E	-.190	.095	.283	-.262	(.238)	-.238	-.048	.095	-.310
F	.310	.071	.643	.595	-.238	(.643)	.524	.286	2.191
G	.619	.167	.500	.333	-.048	.524	(.619)	.476	2.571
H	.024	.333	.381	.381	.095	.286	.476	(.476)	1.976
$t_{j1}$	2.191	1.404	3.500	2.427	-.072	2.834	3.190	2.452	$\Sigma t_{j1}=17.926$
$a_{j1}$	.516	.332	.827	.573	-.017	.669	.753	.579	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=4.234$
重み	1.55	1.00	2.49	1.72	-.05	2.02	2.27	1.74	$\frac{1}{\sqrt{\Sigma t_{j1}}}=0.2362$
修正	1.5	1.0	2.5	1.5	0	2.0	2.5	1.5	

第9表の2 保母2の相関マトリックスと第一因子と重み

	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
A	(.881)	.643	.667	.762	.643	.833	.881	.738	5.167
B	.643	(.643)	.595	.571	.476	.500	.524	.405	3.714
C	.667	.595	(.714)	.619	.595	.667	.667	.714	4.524
D	.762	.571	.619	(.762)	.357	.548	.690	.548	4.095
E	.643	.476	.595	.357	(.787)	.667	.690	.787	4.215
F	.833	.500	.667	.548	.667	(.833)	.690	.762	4.667
G	.881	.524	.667	.690	.690	.690	(.881)	.667	4.809
H	.738	.405	.714	.548	.787	.762	.667	(.787)	4.621
$t_{j1}$	6.048	4.357	5.238	4.857	5.002	5.500	5.690	5.408	$\Sigma t_{j1}=42.100$
$a_{j1}$	.932	.671	.807	.748	.771	.848	.877	.833	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=6.489$
重み	1.39	1.00	1.20	1.11	1.15	1.26	1.31	1.24	$\frac{1}{\sqrt{\Sigma t_{j1}}}=0.1541$
修正	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.0	

第9表の3 保母3の相関マトリックスと第一因子と重み

	A	B	C	D	E	F	G	H	合計
A	(.905)	.524	.833	.833	.429	.690	.905	.762	4.976
B	.524	(.524)	.500	.619	-.071	.429	.500	.524	3.025
C	.833	.500	(.881)	.811	.333	.786	.810	.786	4.929
D	.833	.619	.881	(.881)	.310	.833	.857	.833	5.166
E	.429	-.071	.333	.310	(.548)	.405	.452	.548	2.406
F	.690	.429	.786	.833	.405	(.833)	.738	.810	4.691
G	.905	.500	.810	.857	.452	.738	(.905)	.905	5.167
H	.762	.524	.786	.833	.548	.810	.905	(.905)	5.168
$t_{j1}$	5.881	3.549	5.810	6.047	2.954	5.524	6.072	6.073	$\Sigma t_{j1}=41.910$
$a_{j1}$	.909	.548	.899	.934	.456	.853	.938	.938	$\sqrt{\Sigma t_{j1}}=6.4738$
重み	1.99	1.20	1.97	2.04	1.0	1.87	2.06	2.06	$\frac{1}{\sqrt{\Sigma t_{j1}}}=0.1545$
修正	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0	

第9表の4 指導員1の相関マトリックスと第一因子と重み

	A	B	C	D	E	F	G	H	合 計
A	(.452)	-.333	.357	.357	-.071	.262	.452	-.190	.834
B	-.333	(.190)	-.190	-.119	.190	.143	-.524	.071	-.762
C	.357	-.190	(.357)	-.167	.238	.071	-.048	.024	.285
D	.357	-.119	-.167	(.357)	-.143	.095	.286	-.238	.071
E	-.071	.190	.238	-.143	(.524)	.095	.024	.524	.857
F	.262	.143	.071	.095	.095	(.286)	.048	.286	1.000
G	.452	-.524	-.048	.286	.024	.048	(.452)	.048	.286
H	-.190	.071	.024	-.238	.524	.286	.048	(.524)	.525
$t_{j1}$	1.286	-.572	.642	.428	1.381	1.286	.738	1.049	$\sum t_{j1}=6.238$
$a_{j1}$	.515	-.229	.257	.171	.553	.515	.295	.420	$\sqrt{\sum t_{j1}}=2.497$
重み	2.00	-.89	1.0	0.67	2.15	2.00	1.15	1.63	$\frac{1}{\sqrt{\sum t_{j1}}}=0.4004$
修正	2.0	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	1.0	2.0	

第9表の5 指導員2の相関マトリックスと第一因子と重み

	A	B	C	D	E	F	G	H	合 計
A	(.405)	.262	.119	.310	.405	.214	.405	.238	1.953
B	.262	(.667)	.262	.643	.214	.548	.667	.190	2.786
C	.119	.262	(.333)	.333	.333	.333	.310	.286	1.976
D	.310	.643	.333	(.643)	.095	.167	.619	.310	2.477
E	.405	.214	.333	.095	(.405)	-.071	.190	.310	1.476
F	.214	.548	.333	.167	-.071	(.548)	.214	-.024	1.381
G	.405	.667	.310	.619	.190	.214	(.667)	.143	2.548
H	.238	.190	.286	.310	.310	-.024	.143	(.310)	1.453
$t_{j1}$	2.358	3.453	2.309	3.120	1.881	1.929	3.215	1.763	$\sum t_{j1}=20.028$
$a_{j1}$	.527	.771	.516	.697	.420	.431	.718	.394	$\sqrt{\sum t_{j1}}=4.4753$
重み	1.25	1.84	1.23	1.66	1.0	1.03	1.71	0.94	$\frac{1}{\sqrt{\sum t_{j1}}}=0.2234$
修正	1.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	

第10表 職員間相関の因子分析による第一因子

	A	B	C	D	E	F	G	H
保母1	.731	.669	.297	.810	.276	.727	.698	.612
保母2	.841	.796	.647	.874	.515	.754	.880	.872
保母3	.816	.903	.676	.820	.553	.644	.914	.565
指導員1	.673	.529	.342	.627	.696	.046	.040	.646
指導員2	.621	.656	.683	.399	.458	.441	.583	.473

第11表 職員の重みづけ

	A	B	C	D	E	F	G	H
保母1	1.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.5
保母2	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5
保母3	1.5	1.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0
指導員1	1.0	1.0	1.0	1.5	2.5	0	1.0	0
指導員2	1.0	1.0	2.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1

第12表 児童間相関の因子分析による第一因子

	保母1	保母2	保母3	指導員1	指導員2	保母1	保母2	保母3	指導員1	指導員2
A	.516	.932	.909	.515	.527	1.5	1.5	2.0	2.0	1.0
B	.332	.671	.548	-.229	.771	1.0	1.0	1.0	-1.0	2.0
C	.827	.807	.899	.257	.516	2.5	1.0	2.0	1.0	1.0
D	.573	.748	.934	.171	.697	1.5	1.0	2.0	1.0	2.0
E	-.017	.771	.456	.553	.420	0	1.0	1.0	2.0	1.0
F	.669	.848	.853	.515	.431	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0
G	.753	.877	.938	.295	.718	2.5	1.5	2.0	1.0	2.0
H	.579	.833	.938	.420	.934	1.5	1.0	2.0	2.0	1.0

第13表 児童の重みづけ

第14表の1 A君の修正点

		保母1			保母2			保母3			指導員1			指導員2			合計	合計
		粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点		
正の強化因子	1	0	1.0	0	+1	1.5	1.5	0	1.5	0	-1	1.0	-1	+1	1.0	+1	1.5	16.5
	4	+3		3	+3		4.5	+2		4.5	+2		+2	+2		+2	1.6	
	7	+2		2	+1		1.5	0		0	-1		-1	-3		-3	-0.5	
	10	-2		-2	+1		1.5	0		0	0		0	-2		-2	-2.5	
	13	0		0	0		0	0		0	-2		-2	-1		-1	-3	
	16	0		0	0		0	-1		-1.5	0		0	+1		+1	-0.5	
	19	+1		+1	+2		3	+1		1.5	0		0	0		0	5.5	
負の強化因子	2	+1		+1	0		0	+1		1.5	+1		+1	0		0	3.5	22
	5	0		0	0		0	-1		-1.5	0		0	0		0	-1.5	
	8	+1		+1	-1		-1.5	-2		-3	+1		+1	0		0	-2.5	
	11	-1		-1	0		0	+1		1.5	0		0	+1		+1	1.5	
	14	0		0	0		0	-1		-1.5	0		0	0		0	-1.5	
	17	+2		+2	+1		1.5	+2		3	+1		+1	+2		+2	9.5	
	20	+2		+1	+2		3	+2		3	+3		+3	+3		+3	13	
中性刺激	3	0		0	-2		-3	-2		-3	+2		+2	-2		-2	-6	-38.5
	6	0		0	-2		-3	-1		-1.5	-1		-1	+1		+1	-4.5	
	9	-1		-1	-1		-1.5	0		0	-2		-2	-1		-1	-5.5	
	12	-2		-2	0		0	0		0	-1		-1	-1		-1	-4	
	15	-1		-1	-1		-1.5	0		0	0		0	0		0	-2.5	
	18	-1		-1	-1		-1.5	+1		1.5	+1		+1	0		0	0	
	21	-3		-3	-3		-4.5	-3		-4.5	-3		-3	-1		-1	-16	

第14表の2 B君の修正点

		保母1			保母2			保母3			指導員1			指導員2			合計	合計
		粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点		
正の強化因子	1	+3	1.5	4.5	+3	1.5	4.5	+2	1.5	3	+2	1.0	+2	+2	1.0	+2	+16	46.5
	4	0		0	+2		3	+3		4.5	0		0	+3		+3	+10.5	
	7	0		0	0		0	0		0	-1		-1	-3		-3	-4	
	10	+1		1.5	+1		1.5	+2		3	0		0	+2		+2	+3	
	13	0		0	0		0	+1		1.5	0		0	0		0	+1.5	
	16	+1		1.5	+1		1.5	+1		1.5	+1		+1	0		0	+5.5	
	19	+1		1.5	+2		3	+1		1.5	+2		+2	+1		+1	+9	
負の強化因子	2	-1		-1.5	0		0	-1		-1.5	-1		-1	0		0	-4	-12
	5	0		0	-3		-4.5	-1		-1.5	-3		-3	-1		-1	-10	
	8	0		0	-1		-1.5	-2		-3	-1		-1	-1		-1	-6.5	
	11	+2		3	0		0	0		0	+1		+1	+1		+1	+5	
	14	+2		3	+1		1.5	0		0	-1		-1	+1		+1	+4.5	
	17	0		0	0		0	0		0	-2		-2	0		0	-2	
	20	+1		1.5	+1		1.5	0		0	0		0	-1		-2	+1	
中性刺激	3	-2		-3	-2		-3	-2		-3	0		0	-1		-1	-10	-34.5
	6	-1		-1.5	-2		-3	-1		-1.5	0		0	0		0	-6	
	9	-3		-4.5	-1		-1.5	0		0	0		0	-1		-1	-7	
	12	-2		-3	-1		-1.5	0		0	+1		+1	-2		-2	-5.5	
	15	-1		-1.5	-1		-1.5	-3		-4.5	-2		-2	0		0	-9.5	
	18	-1		-1.5	0		0	+1		+1.5	+1		+1	0		0	+1	
	21	0		0	0		0	-1		-1.5	+3		+3	+1		+1	+2.5	

中 他：収容施設における児童・職員のオペラント行動の研究

第14表の3 C君の修正点

		保母1			保母2			保母3			指導員1			指導員2			合 計	合 計
		粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点		
正の強化因子	1	0	1.0	0	0	2.0	0	-1	2.5	-2.5	-1	1.0	-1	-3	2.5	-7.5	-11	28.5
	4	+3		+3	+3		+6	+3		+7.5	0		0	+3		+7.5	+24	
	7	-2		-2	+2		+4	-1		-2.5	-1		-1	-1		-2.5	-4	
	10	+1		+1	+1		+2	0		0	0		0	+1		+2.5	+5.5	
	13	+1		+1	0		0	0		0	+2		+2	+2		+2.5	+8	
	11	0		0	+1		+2	+1		+2.5	0		0	-1		-2.5	+2	
19	+1		+1	0		0	+2		+5	-2		-2	0		0	+4		
負の強化因子	2	0		0	+2		+4	0		0	+1		+1	+1		+2.5	+7.5	2.5
	5	-2		-2	-2		-4	0		0	+1		+1	-2		-5	-10	
	8	0		0	-1		-2	-2		-5	0		0	-2		-5	-12	
	11	-3		-3	+1		+2	+1		+2.5	+1		+1	+2		+5	+7.5	
	14	0		0	+1		+2	-1		-2.5	+2		+2	+2		0	+1.5	
	17	+2		+2	0		0	+1		+2.5	-3		-3	-1		-2.5	-1	
20	+1		+1	0		0	+1		+2.5	+3		+3	+1		+2.5	+9		
中性刺激	3	-1		-1	-1		-2	0		0	+1		+1	0		0	-2	-31
	6	+2		+2	-3		-6	-2		-5	0		0	0		0	-9	
	9	-1		-1	-1		-2	0		0	-1		-1	0		0	-4	
	12	0		0	-1		-2	-1		-2.5	0		0	0		0	-4.5	
	15	0		0	0		0	0		0	-1		-1	0		0	-1	
	18	-1		-1	0		0	+2		+5	0		0	+1		+2.5	+6.5	
21	-1		-1	-2		-4	-3		-7.5	-2		-2	-1		-2.5	-17		

第14表の4 D君の修正点

		保母1			保母2			保母3			指導員1			指導員2			合 計	合 計
		粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点		
正の強化因子	1	0	2.0	0	+1	2.0	+2	0	2.0	0	-1	1.5	-1.5	0	1.0	0	+0.5	33
	4	+3		+6	+3		+6	+3		+6	+3		+4.5	+3		+3	+25.5	
	7	-1		-2	+1		+2	-1		-2	0		0	-3		-3	-5	
	10	+2		+4	0		0	0		0	+1		+1.5	+1		+1	+6.5	
	13	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	
	16	0		0	0		0	+1		+2	-3		-4.5	-2		-2	-4.5	
19	+1		+2	0		0	+2		+4	+2		+3	+1		+1	+10		
負の強化因子	2	-2		-4	-1		-2	-1		-2	-1		-1.5	-1		-1	-10.5	-1.5
	5	-1		-2	-1		-2	-1		-2	-1		-1.5	0		0	-7.5	
	8	-2		-4	-2		-4	-2		-4	0		0	0		0	-12	
	11	0		0	0		0	+1		+2	0		0	+2		+2	+4	
	14	0		0	+1		+2	0		0	0		0	+1		+1	+3	
	17	+1		+2	+1		+2	+2		+4	+2		+3	+1		+1	+12	
20	+1		+2	+2		+4	+1		+2	+1		+1.5	0		0	+9.5		
中性刺激	3	-3		-6	-2		-4	-1		-2	-2		-3	0		0	-15	-31.5
	6	-1		-2	-1		-2	-2		-4	0		0	-1		-1	-9	
	9	0		0	-1		-2	0		0	-2		-3	-1		-1	-6	
	12	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	
	15	+2		+4	0		0	0		0	+1		+1.5	-2		-2	+3.5	
	18	+1		+2	+2		+4	+1		+2	+1		+1.5	-1		-1	+8.5	
21	-1		-2	-3		-6	-3		-6	-1		-1.5	+2		+2	-13.5		

第14表の5 E君の修正点

		保母1			保母2			保母3			指導員1			指導員2			合計	合計
		粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点		
正の強化因子	1	0	1.0	0	+1	2.0	+2	0	2.0	0	+2	2.5	+5	0	1.5	0	7	
	4	-2		-2	0		0	-1		-2	0	0	+1		+1.5	-2.5		
	7	-3		-3	0		0	0		0	-3	-7.5	-2		-3	-13.5		
	10	+1		+1	+1		+2	-1		-2	0	0	0		0	+1		
	13	+1		+1	0		0	0		0	+2	+5	+1		+1.5	+7.5		
	16	0		0	0		0	-1		-2	-1	-2.5	+2		+3	-1.5		
19	+1		+1	+1		+2	+2		+4	-2	-5	-3		-4.5	-2.5		-4.5	
負の強化因子	2	-2		-2	+2		+4	+1		+2	0	0	+3		+4.5	+8.5		
	5	-1		-1	0		0	+1		+2	0	-1		-1.5	-0.5			
	8	+3		+3	0		0	0		0	-1	-2.5	-1		-1.5	-1		
	11	0		0	+3		+6	+1		+2	+3	+7.5	+1		+1.5	+17		
	14	0		0	0		0	-2		-4	-1	-2.5	0		0	-6.5		
	17	0		0	+1		+2	+3		+6	+1	+2.5	0		0	+10.5		
20	+1		+1	+2		+4	+2		+4	+1	+2.5	+1		+1.5	+13		+41	
中性刺激	3	+2		+2	-1		-2	+1		+2	+1	+2.5	0		0	+4.5		
	6	+2		+2	-3		-6	0		0	0	0	+2		+3	-1		
	9	-1		-1	-2		-4	0		0	0	0	-2		-3	-8		
	12	0		0	-1		-2	-1		-2	0	0	0		0	-4		
	15	-1		-1	-1		-2	0		0	-1	-2.5	-1		-1.5	-7		
	18	-1		-1	-1		-2	-2		-4	-2	-5	-1		-1.5	-13.5		
21	0		0	-2		-4	-3		-6	+1	+2.5	0		0	-7.5		-36.5	

第14表の6 F子の修正点

		保母1			保母2			保母3			指導員1			指導員2			合計	合計
		粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点		
正の強化因子	1	0	1.5	0	0	1.5	0	0	1.5	0	+2	0	0	0	1.0	0	0	
	4	+3		+4.5	+1		+1.5	+2		+3	-1	0	+3		+3	+12		
	7	+1		+1.5	+3		+4.5	0		0	-1	0	-3		-3	+3		
	10	+1		+1.5	+1		+1.5	0		0	0	0	0		0	+3		
	13	0		0	0		0	0		0	-2	0	0		0	0		
	16	0		0	0		0	+1		+1.5	-3	0	+1		+1	+2.5		
19	+1		+1.5	+2		+3	+1		+1.5	0	0	+1		+1	+7		27.5	
負の強化因子	2	0		0	+1		+1.5	-1		-1.5	0	0	-1		-1	-1		
	5	-2		-3	-1		-1.5	-1		-1.5	-1	0	0		0	-6		
	8	0		0	0		0	-2		-3	0	0	-1		-1	-4		
	11	-3		-4.5	0		0	-1		-1.5	-1	0	0		0	-6		
	14	0		0	0		0	0		0	+2	0	+1		+1	+1		
	17	+2		+3	+1		+1.5	+3		+4.5	0	0	-1		-1	+8		
20	+1		+1.5	+2		+3	+2		+3	+1	0	-2		-2	+5.5		-2.5	
中性刺激	3	-1		-1.5	-1		-1.5	+1		+1.5	+3	0	0		0	-1.5		
	6	-2		-3	-2		-3	-2		-3	+1	0	0		0	-9		
	9	-1		-1.5	-1		-1.5	0		0	-2	0	+2		+2	-1		
	12	0		0	0		0	-1		-1.5	0	-1	-1		-1	-2.5		
	15	+2		+3	-2		-3	0		5	0	0	+2		+2	+2		
	18	-1		-1.5	-1		-1.5	+1		+1.5	+1	+1	+1		+1	-0.5		
21	-1		-1.5	-3		-4.5	-3		-4.5	+1	0	-2		-2	-12.5		-25	

中 他：収容施設における児童・職員のオペラント行動の研究

第14表の7 G子の修正点

		保母1			保母2			保母3			指導員1			指導員2			合計	合計
		粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点		
正の強化因子	1	0	1.5	0	+1	2.0	+2	0	2.0	0	-1	1.0	-1	0	1.5	0	1	
	4	+3		+4.5	+3	+6	+3	+6	+1	+1	+3	+4.5	+2			+4.5	+22	
	7	-1		-1.5	0	0	0	0	0	-1	-1	-1.5	-1			-1.5	-4	
	10	0		0	0	0	0	0	0	+1	+1	+1.5	+1			+1.5	+2.5	
	13	+2		+3	0	0	0	0	0	-2	-2	-1.5	-1			-1.5	-0.5	
	16	0		0	0	0	-1	-2	0	-2	0	0	0			0	-2	
19	+1		+1.5	+1	+2	+2	+2	+4	-2	-2	+1	+1.5			+1.5	+7	26.0	
負の強化因子	2	+2		+3	+2	+4	+1	+2	+2	+2	0	0			0	+11		
	5	-1		-1.5	+1	+2	0	0	+2	+2	0	0			0	+2.5		
	8	+1		+1.5	-1	-2	-2	-4	+1	+1	-2	-3			-3	-6.5		
	11	0		0	0	0	+1	+2	0	0	+1	+1.5			+1.5	+3.5		
	14	0		0	0	0	0	0	0	+2	+2	+3			+3	+3		
	17	+1		+1.5	+1	+2	+2	+2	+4	3	+3	+2	+3.5			+3.5	+13.5	
20	+1		+1.5	+2	+4	+1	+2	+2	+0	0	-1	-1.5			-1.5	+6	33	
中性刺激	3	-1		-1.5	-2	-4	-1	-2	-1	-1	-3	-4.5			-4.5	-13		
	6	-2		-3	-2	-4	-2	-4	-1	-1	0	0			0	-12		
	9	0		0	-1	-2	-1	-2	-3	-3	-2	-3			-3	-10		
	12	0		0	-1	-2	-1	-2	0	0	0	0			0	-4		
	15	-1		-1.5	-1	-2	0	-2	0	+1	-1	-1.5			-1.5	-4		
	18	-2		-3	0	0	+1	+2	0	0	0	0			0	-1		
21	-3		-4.5	-3	-6	-3	-6	-6	0	0	+1	+1.5			+1.5	-15	-59	

第14表の8 H子の修正点

		保母1			保母2			保母3			指導員1			指導員2			合計	合計
		粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点	粗点	重み	修正点		
正の強化因子	1	0	1.5	0	0	1.5	0	0	1.0	0	+2	0	0	1	0	0		
	4	0		0	+2	+3	+2	+2	-2	0	-2	+1			+1	+6		
	7	-3		-4.5	+2	+3	0	0	-1	0	-2	-2			-2	-3.5		
	10	+1		-1.5	+1	+1.5	+1	+1	0	+1	0	+1			+1	+2		
	13	+1		+1.5	0	0	0	0	+2	0	+2	+2			+2	+3.5		
	16	0		0	+1	+1.5	0	0	-1	0	-1	-1			-1	-0.5		
19	+3		+4.5	0	0	+2	+2	-2	0	0	0			0	+6.5	14		
負の強化因子	2	+1		+1.5	0	0	+1	+1	0	0	+2	+2			+2	+4.5		
	5	-1		-1.5	0	0	-1	-1	0	0	0	0			0	-2.5		
	8	-2		-3	0	0	-2	-2	0	1	+3	+3			+3	-2		
	11	0		0	+3	+4.5	+1	+1	-1	0	+1	+1			+1	+4.5		
	14	+2		+3	0	0	0	0	+1	0	0	0			0	+3		
	17	+2		+3	+1	+1.5	+3	+3	+3	+3	0	0	0		0	+7.5		
20	+1		+1.5	+1	+1.5	+1	+1	+1	0	0	0			0	+4	19		
中性刺激	3	-1		-1.5	-1	-1.5	0	0	+1	0	-1	-1			-1	-4		
	6	-2		-3	-2	-3	-2	-2	0	-1	0	0			-1	-9		
	9	0		0	-1	-1.5	-1	-1	0	0	-3	-3			-3	-5.5		
	12	0		0	-1	-1.5	-1	-1	+1	0	0	0			0	-2.5		
	15	-1		-1.5	-2	-3	-1	-1	-3	0	-1	-1			-1	-6.5		
	18	-1		-1.5	-1	-1.5	0	0	-1	0	+1	+1			+1	-2		
21	0		0	-3	-4.5	-3	-3	+1	0	-2	-2			-2	-9.5	-33		